

START YOUR ENGINES!



エンジン事業部
キャラクター「エジモン」
(エンジン生産累計2,000万台
達成記念として誕生)

「お前は、生まれたときからクルマ好きだなあ〜」
今でも記憶に残っている。日本のモータリゼーション進展の草創期、オオタ自動車(後の東急くるがね工業)という小さな自動車メーカーに勤めていた父の声である。



東急くるがね工業「くるがねペビー」のカタログ

ボンネットを外した試験車両に乗り込み、テストコースならぬ山坂道で走行試験を繰り返す父。その背中にはおんぶ紐で括られた幼児、それが私である。記憶には無いし、とても信じられない状況だが、当時はこんな光景もあったようだ。四六時中仕事の話をしていて記憶しかない程、仕事熱心な人だった。

家庭環境の影響からか、物心ついた頃から自動車は身近にあった。排ガスの匂い、オイル・燃料の匂いが好きで、特にタクシーやバスの排気臭に惹かれ、通り過ぎると走って後を追いかけた。「エンジンが動き、クルマを動かす」そのメカニズムが面白くてたまらず、中学時代の愛読誌は自動車工学やオートメカニックだった。モータースポーツと車両・設備の分解・修理に明け暮れた学生時代、入社後はエンジン事業部に配属、とても恵まれた会社生活である。

経営役員
松本 洋
Hiroschi Matsumoto



昨今、急激な脱炭素ブームで、エンジンが悪者のように思われているのが残念でならない。地球環境が保護・保全されるのは必然である。その達成方策の一つが電動化であるのは理解できるが、それが全てのような報道が後を絶たない。

先日、中国製のBEV(電気自動車)に試乗した。近場の買い物程度なら満足できるレベルと感じた。衝突安全性を除けば、近距離移動車としては十分。自宅や出先で気軽に使えるコンセントがあれば、実用的で問題ないと思った。

一方で、現時点では高速道路やオフロードの巡航など、高負荷・長距離の移動にBEVは向いていない。安心して使えるのはエンジン搭載車になる。将来技術の進化はあると思うが、そもそもの考え方として原動機毎の強みを活かし、使い分けるバランス感覚が重要だと思う。

脱炭素社会達成のためには、電動とエンジン各々の特徴を活かした動力源の開発、さらに次世代燃料と従来技術との連携が必須。正しい認識を世論がもつためには客観的な根拠を論理的に示し、それを正しく伝える必要がある。

エンジン事業部は昨年、トヨタ自動車(株)からディーゼルエンジン事業を移管し、これまでの「受託事業」を「自前事業」へと変えた。

脱炭素・電動化が進展し、エンジン車全体の市場は縮小傾向にある。一方で、新興国・商用/産業用を中心に、まだまだディーゼルエンジンを必要とされるお客様がいる。加えて次世代燃料対応エンジンへの要求も高まっている。我々は覚悟と責任を持って、エンジンを提供し続けるつもりだ。

自前事業への変革は並大抵ではない。部門長と次世代のリーダー候補達が十分な議論を重ね、エンジン事業部のビジョンを策定した。

『人と社会、地球環境のためになるエンジンを創ろう』
事業部全員がこの想いを貫いて欲しいと切に願う。

最近若い世代を中心に「クルマ離れ」と言われている。私の娘達もクルマには全く興味がない。自動車は運転をしなくても、安全に目的地に運んでくれるが良い。彼女らの世代にはリアルを知らずしてバーチャルな現実感を楽しむ人も多い。

そんな世代のプロレーサーがいる。リアルでも速い。運転技術はバーチャルで十分訓練されている。問題は人が関与する事による「想定外」。レースには相手がいる。相手も人だから想定外な動きをする時がある。いくら学習をしてもバーチャルはそれに弱い。人の曖昧さと融合・協調ができれば、自動運転の実現が見えてくるのだろう。

エンジニアとして大切にしたい姿勢

① 上質なKKD(勘・経験・度胸)を養う

お客様の常識≠自身の常識
お客様の使い方を知る。限界を見極める
それでも問題は起きる。その時は愚直に問題解決する

② 真実を知る。真因追究にこだわる

データは嘘をつかない。原理原則に基づいた解析、
ばらつきを考慮したリスクの予測
その上で適切な判断基準を考え抜く

③ 不変な事、変化すべき事を見極める

論理的に正しくてもそれを実現できない時がある。
妥協せず、あきらめず
その中でバランスを保ち最善策を探る

時代・環境は、いつの時代でも変化し続けている。その変化に柔軟に対応しながら、敏感に反応しすぎない「鈍感力」も必要だと思う。

目の前にはカーボンニュートラルという新しいサーキットがある。読めないコースコンディションや競合がひしめく中、漸くスタートラインに着いたエンジニアの皆さん。栄光のチェッカーに向かい、果敢に挑戦し、颯爽と駆け抜ける事を願ってやまない。

START YOUR ENGINES !!